

市指定史跡 千人塚古墳 公園整備計画すすむ

発掘調査で新たな発見も

千人塚古墳周溝の発見

須津地区に所在する富士市指定史跡「千人塚古墳」は、静岡県東部では最大級の横穴式石室（全長11.4m以上）をもつ7世紀に築かれた円墳だ。市教育委員会ではこの古墳を保存・活用するために、石室と墳丘の一部を修復し、西側に現存する須津J・第12号墳とともに古墳公園として整備する計画を進めている。古墳文化について学び、イベントにも活用できるような公園を目標に、令和6年度に工事へ着手し、令和7年度中の公園オープンを目指す。

さらに文化財課では公園整備に先立ち、敷地内に残る埋蔵文化財の状況を確認するための発掘調査を、令和5年7月と11月に実施した。その結果、千人塚古墳石室の南西部で、墳丘を囲む周溝の一部が発見された。平成19年の調査でも石室西側の周溝の一部を確認しており、今回の周溝はこれに繋がるものとみている。これら2つの調査成果から、千人塚古墳の周溝の幅が最大3m、墳丘の直径が約21mに復原できるようになった。



今回の調査で発見された千人塚古墳の周溝



今回の調査区と古墳の復原図



須津J・第12号墳の横穴式石室調査風景

（仮称）須津千人塚古墳公園 整備計画図



※この図面は計画中のものであり、実際とは異なる部分があります。

須津J・第12号墳 石室・周溝の発見

また、千人塚古墳の西側に存在する須津J・第12号墳では、横穴式石室と周溝の一部を初めて確認することができた。石室の上部や西側はすでに壊れていたが、東側は石室の壁や裏込めの石、石室を造るために掘った墓坑などが良好な状態で残存することが判明した。調査の結果、須津J・第12号墳は墳丘の直径が最大8.6m、石室全長は4.6mを測ることがわかった。



千人塚古墳の位置

埋蔵文化財ニュース

2023年（令和5年）
12月1日（第11号）
富士市教育委員会
文化財課
富士市埋蔵文化財調査室